

不登校児童生徒への支援④

不登校児童生徒支援としての 困難課題対応的生徒指導

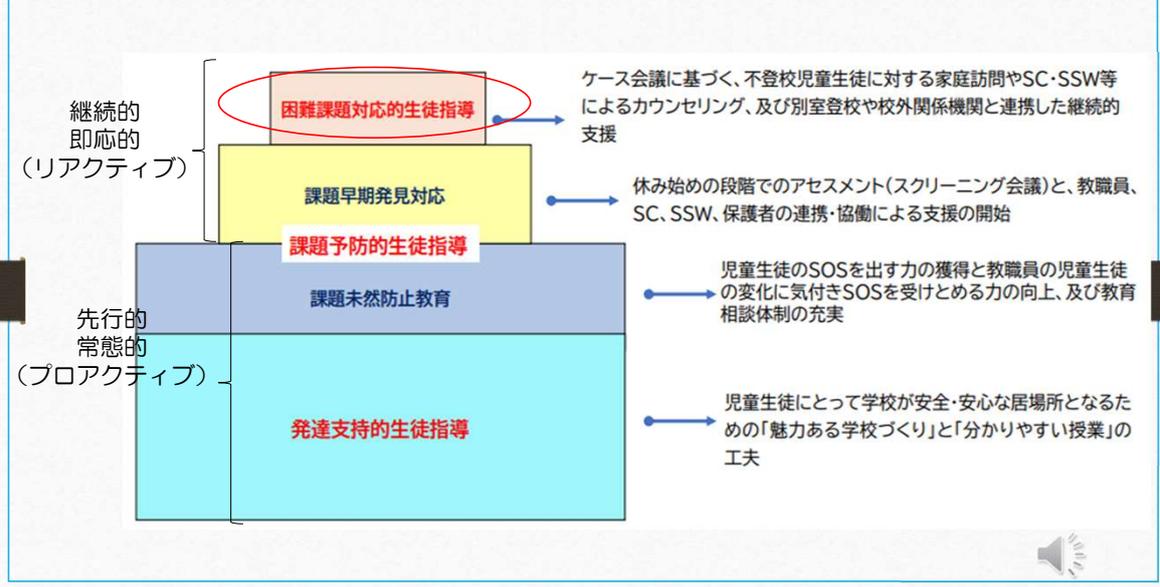


シリーズ「不登校児童生徒への支援 パート④（フォー）」

このシリーズでは、不登校に対して学校が取り組んでいくことについて、シリーズ化しています。

今回は不登校児童生徒支援としての「困難課題対応的生徒指導」について学び、考えていきましょう。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導



令和4年度の生徒指導提要の改定によって、生徒指導の構造の整理が行われました。

この校内研修プログラムでは生徒指導提要の改定で示された、重層的支援構造の考え方に基づいて、具体的な支援内容を理解、実践できるように構成しています。

今回はここ★

不登校児童生徒支援としての「困難課題対応的生徒指導」をどのように考え、実際の対応をしていけばよいのか皆さんと一緒に考えていきたいと思います。ここでは、不登校の児童生徒を対象に、校内の教職員だけでなく、外部関係機関との連携・協働による課題対応を行います。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導

- (1) ケース会議による具体的な対応の決定
- (2) 校内における支援
- (3) 家庭訪問の実施
- (4) 学外の関係機関との連携
- (5) 家庭や保護者を支える
- (6) 校種を越えた移行期における支援の大切さ
- (7) ICTを活用した支援
- (8) 多様な自立に向けての進路支援



その際、生徒指導提要では、このような8つの項目をあげて学校が実践していくと良い具体的な内容を示しています。

不登校児童生徒支援の対応は、対象とする児童生徒の数だけ、対応方法があると言っても過言ではありません。

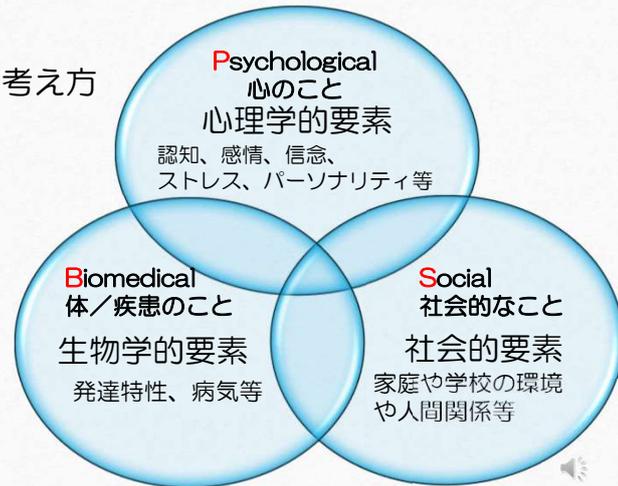
多くの具体的方法を詳しく示しているのは、困難課題対応の場合は、より多面的な実態把握が必要であり、丁寧な対応を必要としていると言えるでしょう。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導

※BPSモデル

1977に、精神科医である
ジョージ・エンゲルが提唱した考え方

色々な角度から
チームで
打開策を考える



不登校の子どものアセスメントはいろいろな角度から、児童生徒理解をし、
★チームで打開策を考えていくことが必要です。
その一例として。生徒指導提要では、BPS モデルというものが紹介されています。

BPSモデルとは、

★B=バイオメディカル「生物学的要素」 発達特性や病気等の要素のことを言います。

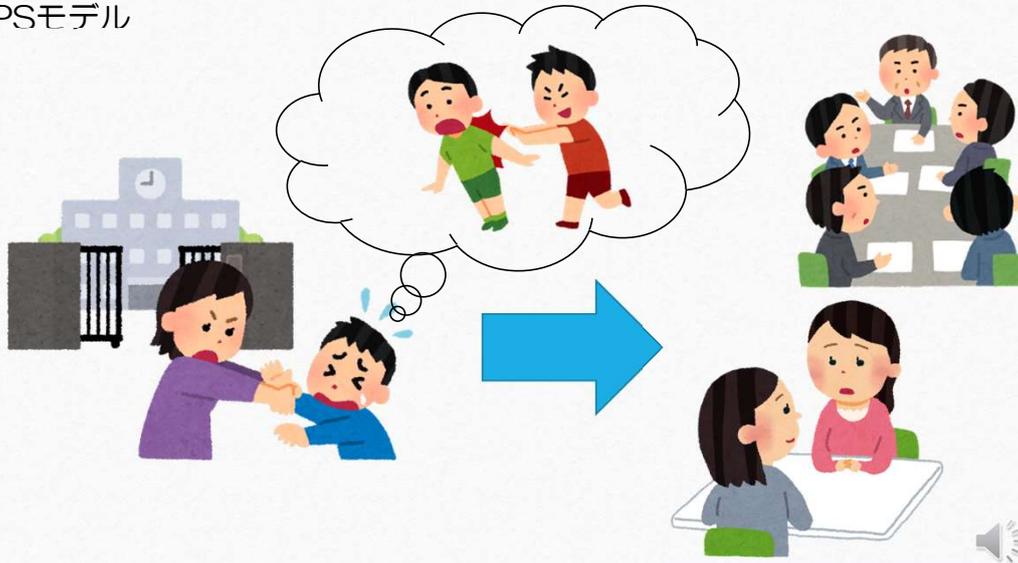
★P=サイコロジカル「心理学的要素」 認知や感情、信念等の心の要素のことを言います。

★S=ソーシャル「社会的要素」 家庭や学校の環境、人間関係などの社会的要素のことを言っています。

それらに注目し、一方向ではなく多面的に理解していくアセスメント法ということになります。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導

BPSモデル



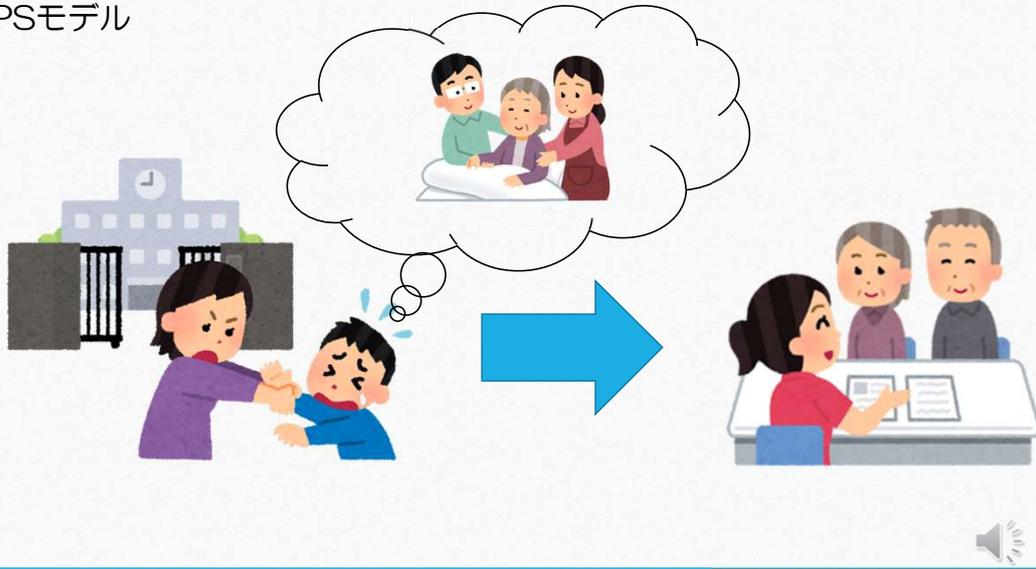
行き渋っている子どもの背景には様々な要因があります。例えば

★学校生活が要因の場合は★

★校内でのケース会議や★スクールカウンセラーとの相談を進めていくことが有効な打開策を探ることができるかもしれません。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導

BPSモデル



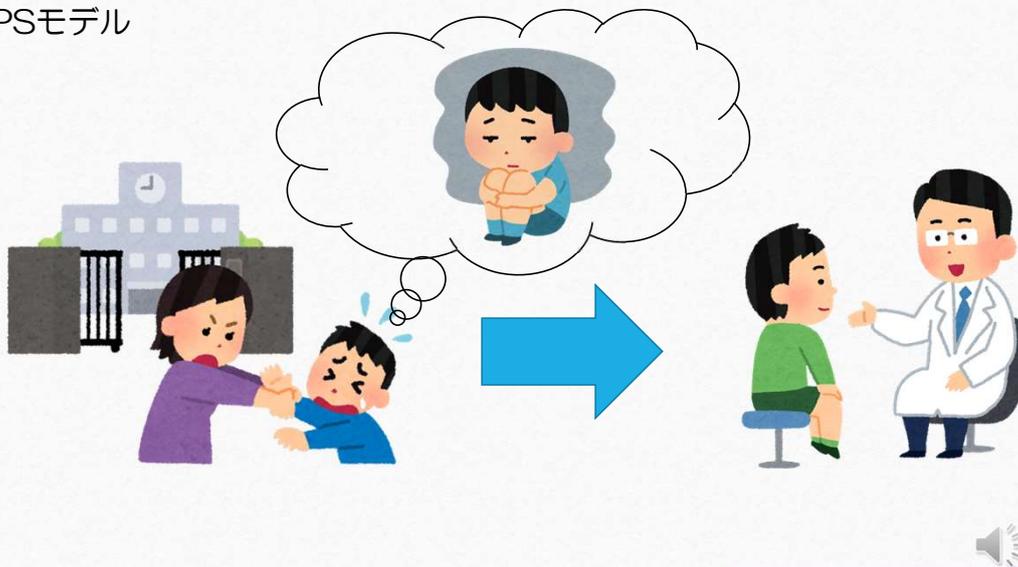
家庭での心配事があるなど・・・

★家庭生活が要因の場合は

★福祉サービスの利用を提案することも有効でしょう。その場合はSSWなど福祉の専門家との連携も必要となってきます。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導

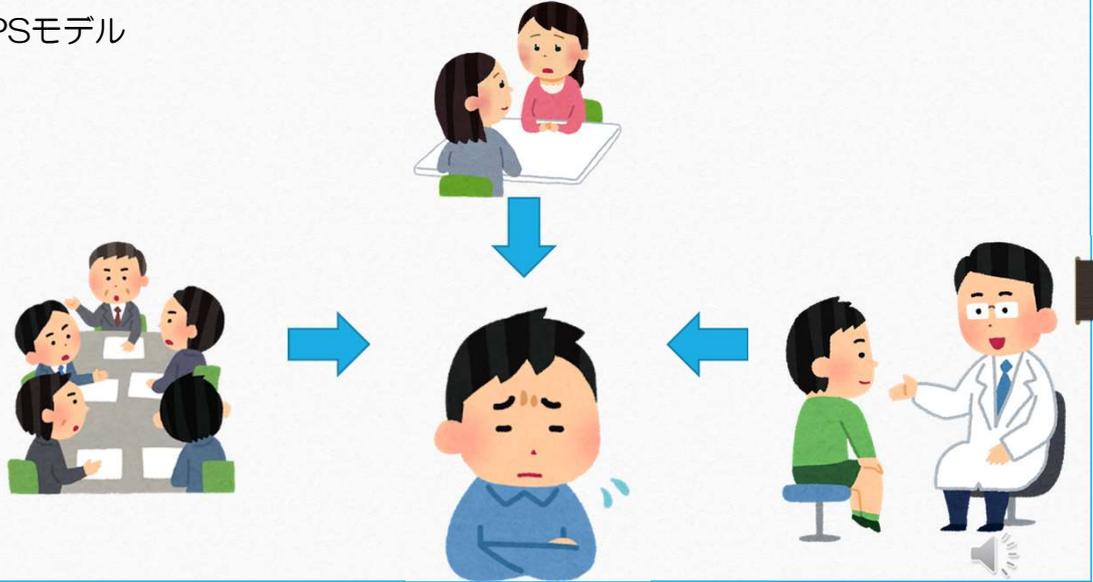
BPSモデル



やる気が出ない、学習での困っていることがあるなど
★心理面や発達の課題が要因の場合は★
★医療受診、ドクターとの連携も必要となってきます。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導

BPSモデル



どのようなケースであったとしても「この子はこういう子」と一面的な見方をせず、
その子の状態や背景を丁寧に分かっていくことが大切です。
その際、多方面の専門家と共に、意見を出し合いながらアセスメントをし、
打開策を考えていく必要があるということです。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導

(1) ケース会議による具体的な対応の決定

児童生徒理解



具体的な支援方法

- 校内の支援体制で支えるのか？
- 学校外の関係機関の力を借りるのか？
⇒具体的にどの機関と連携するのか？



実際のイメージで考えてみましょう。

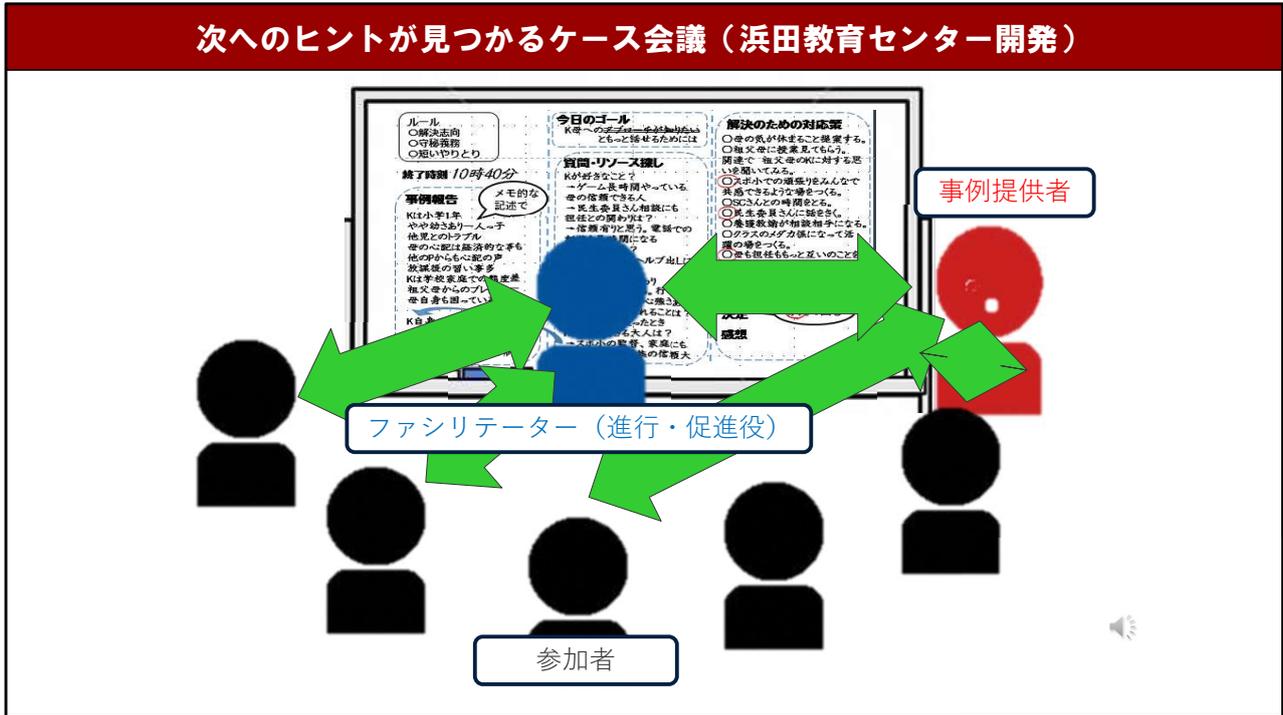
どのようなケースでも、まず初めに校内の支援体制を考えることからスタートされていることでしょう。

その一つとしてケース会議があります。

ケース会議において大切なのは、児童生徒理解に終わるのでなく、次の一歩となる★具体的な支援方法まで検討することが肝要です。

校内での支援体制で支えるのか、学校外の関係機関の力を借りるのか、その場合は、具体的にどの機関と連携するのか などです。

次へのヒントが見つかるケース会議（浜田教育センター開発）



次の一歩となる具体的な支援方法まで検討するというケース会議の仕方については、浜田教育センターが共同研究で開発した「次へのヒントが見つかるケース会議」の手法が参考になります。これは、教育センターホームページに詳しい解説が掲載されていますので、こちらも参考にしてください。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導

(1) ケース会議による具体的な対応の決定

具体的な打開策！



この他にも、ケース会議には様々な手法が開発されています。
どのケース会議もそれぞれ優れたものですが、最終的に具体的な打開策が見つかるまで行くことが大切です。

また、担任一人ではできないことも、チームを組み、アセスメントに基づいて役割を分担をすることで、指導・援助の幅や可能性が飛躍的に広がっていきます。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導

(1) ケース会議による具体的な対応の決定

■ ①自己リソース

リソース＝資源



<個人が内的にもっているもの>

性質、能力、興味、関心、嗜好、特技、好物、得意科目など

<外面的なもの> 容姿、器量、身なり、態度、雰囲気、自己表現方法など・好きなこと、得意なこと・やりたいこと、なりたいこと・例外、やれていること・続いて(増えて)ほしいこと

■ ②環境リソース

<大事にしているもの> ペット(鳥、ハムスター、昆虫)ぬいぐるみ、手紙ゲーム等

<外部に存在するもの> 自然、環境、施設、設備 など

■ ③他者リソース

<私的な関係> 家族、兄弟、親戚、友人、地域の友達

<主に公的な関係> 教師、医師、心理士、相談員、民生委員 など



ではここで、ケース会議において、必要な「リソース探し」の演習を試してみましょう。

リソース (resource) とは「資源」のことです。

不登校児童に対する「リソース」とは、「現状の解決のために活用できる、ありとあらゆるもの」を指します。

どのケース会議の手法を用いるにしても「リソースに目を向ける」ということで、具体的な解決策にたどり着くことができます。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導

ミニ ワーク①

探して！リソースの種 大きく育てよう

目的：リソースを見つける力をアップさせる

- 1 不登校、不登校傾向（欠席が比較的多い）子どもを一人思い浮かべる。（個人作業）



今回は、このリソースを見つける力をアップさせるという目的で演習を試みることにします。

その子の周りの環境やその子自身が持っている能力、これまで積んできた体験などがあるでしょう。

まず、不登校、不登校傾向の子どもを一人思い浮かべてください。

担当している子ども達の中にいない場合は、欠席が比較的多い子や欠席が月曜日に集中しているなど、ちょっと気にかかる子で考えてみましょう。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導

ミニ ワーク①

探して！リソースの種 大きく育てよう

目的：リソースを見つける力をアップさせる

- 1 不登校、不登校傾向（欠席が比較的多い）子どもを一人思い浮かべる。（個人作業）
- 2 ワークシート「探して！リソースの種 大きく育てよう」を使って、リソース探しを試みる。（個人作業）
- 3 グループ（3～4人）で、感想を話し合おう。

★思い浮かびましたか？次にワークシート「探して！リソースの種 大きく育てよう」を使ってワークを試みます。

★後で、感想を話し合ってみるという手順です。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導

ミニ
ワーク①

探して！リソースの種 大きく育てよう

目的

1

動画は一旦停止

ものを



2

時間は調整してください

「う」
業)

3

グループ（3～4人）で、感想を話し合しましょう。

それでは、動画を一旦停止にしてください。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導



いかかでしたでしょうか？

不登校という形で現れる子もいれば、問題行動として表現してしまう子ども達もいます。

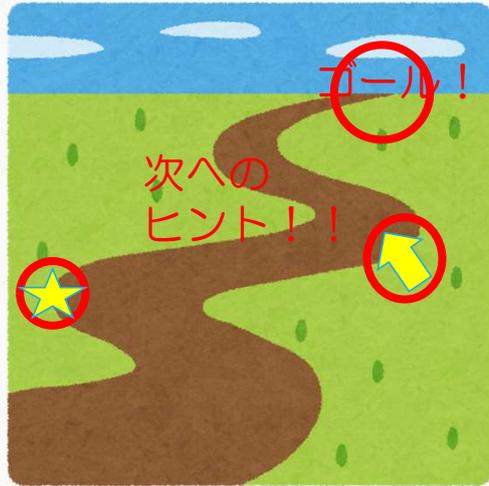
どんな子どもであっても、学校生活に対して、★不適応となっている背景には様々な要因があります。

そして、どの子にも必ずリソースはあります。★

まずはそのリソースを見ようとしてみるのが、その子への支援の第一歩となり、手がかりとなるのではないのでしょうか。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導

(1) ケース会議による具体的な対応の決定



すぐにゴールにはたどり着けなくても★

★その手掛かりとなる小さな手がかりや★道しるべを見つけることができれば・・・

★それを手伝ってくれる仲間がいれば・・・

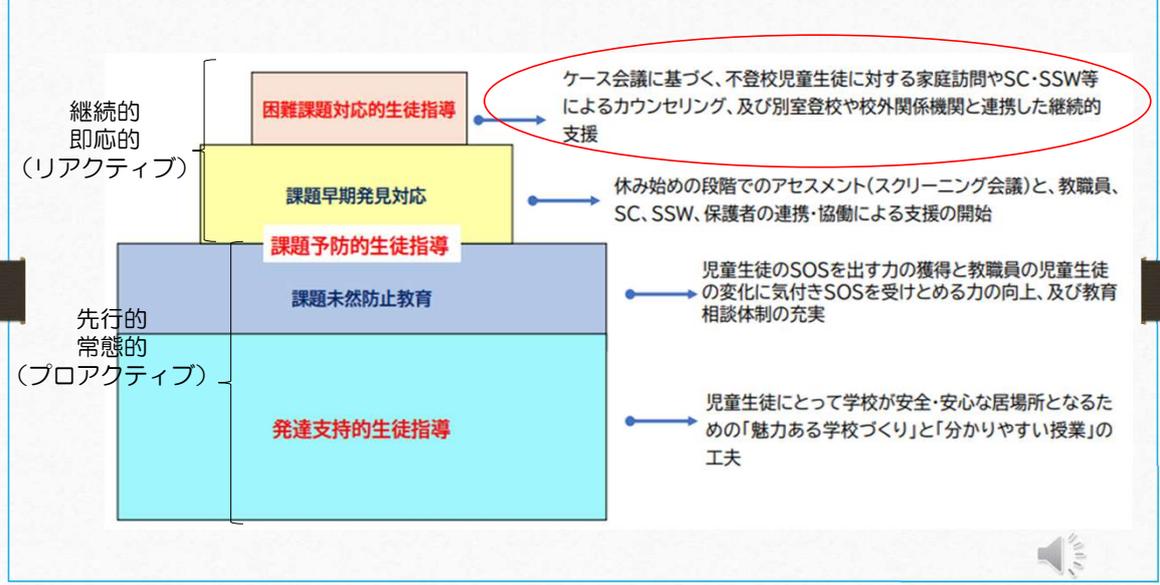
★きっと次へのヒントが見つかり、一歩踏み出す勇気が湧いてくることでしょう。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導



人は誰でも「わかりたい」「成長したい」という願いを持っている存在です。私たち教職員は、★温かいまなざしを持ち、★どの子に対しても大切な存在という気持ちを忘れず、その子のリソースに目を向け、それを強化、支えていくことでその子が本来持っている力を発揮することができるようになっていくのではないのでしょうか。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導



不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導では、不登校の児童生徒を対象に、校内の教職員だけでなく、校外の教育委員会や関係機関との連携・協働による課題対応を行います。

効果的に連携をしていくためには、その子のリソースに目を向けて考えていくことが重要です。

レッツ チャレンジ！！



今回の研修を一つのきっかけとし、日々の実践の中で積み重ねていかれることを願っています。
以上で「不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導」のプログラムを終了します。お疲れ様でした。

不登校児童生徒への支援④

不登校児童生徒支援としての 困難課題対応的生徒指導

【参考・引用】

- 生徒指導提要（文部科学省）2022年
- 次へのヒントが見つかるケース会議（浜田教育センター）2021年
- 月刊 学校教育相談 2023 1月号（ほんの森出版）
- 月刊 生徒指導 2022 12月号（学事出版）
- 月刊 生徒指導 2023 1月号（学事出版）

【BGM】

- 甘茶の音楽工房 <https://amachamusic.chagasi.com/>